

運用指針

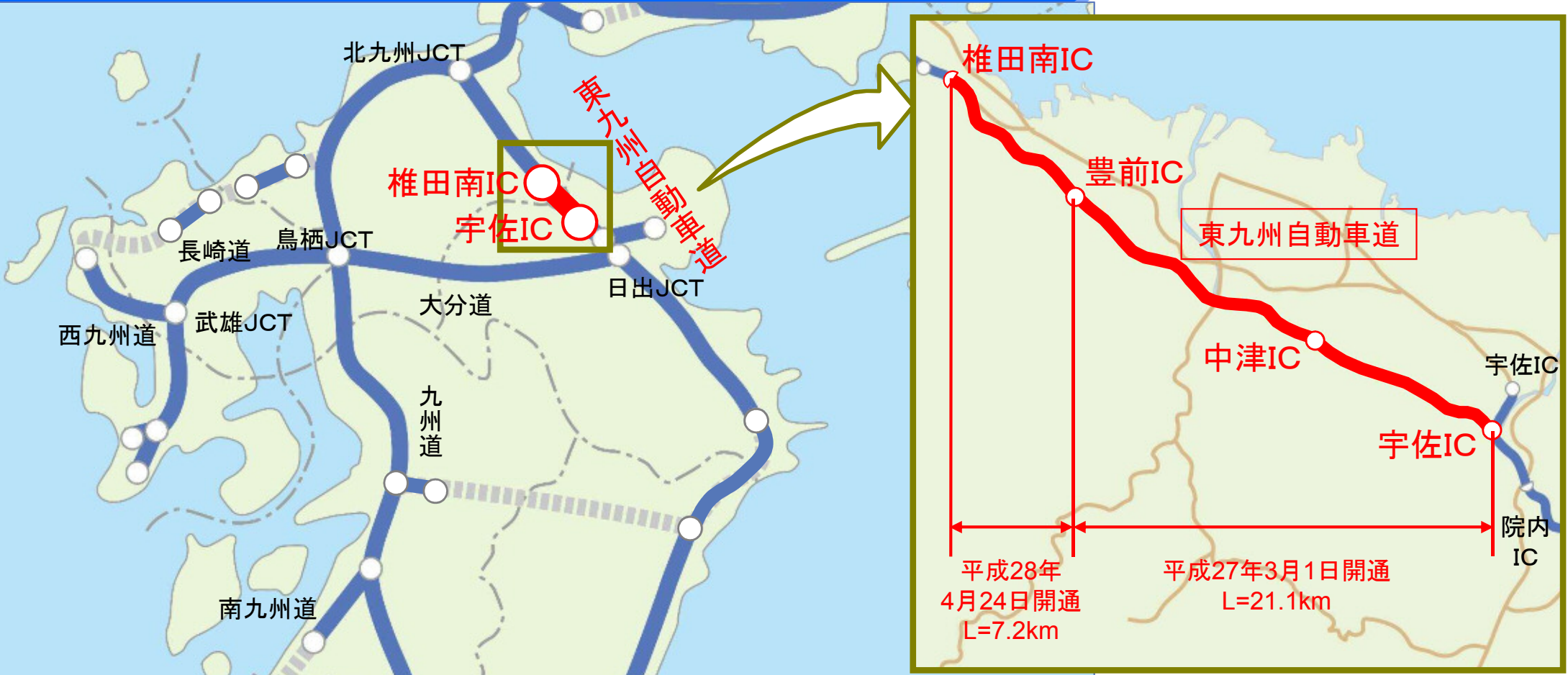
第2条③

供用までの期間を短縮したことによる費用の縮減

東九州自動車道

シイダミナミ ウサ
(椎田南IC～宇佐IC)の早期供用

東九州自動車道 椎田南IC～宇佐ICの路線概要



- ・東九州自動車道は、福岡県北九州市を起点として、大分・宮崎・鹿児島各県を結び、鹿児島市に至る延長約436kmの高速道路。
- ・このうち、椎田南～宇佐間は、既に供用中の福岡県側一般有料道路椎田道路と大分県側一般有料道路宇佐別府道路に直結し、並行する一般国道10号等と一体的に機能することにより、地域間交通の円滑化に寄与し、効率的で信頼性の高いネットワークの充実を図り、北九州市内及び大分市内を結ぶ主要アクセスルートとして、重要な役割を果たします。

当初計画

- ・全体としては、標準的な供用工程ではあるものの、収用手続きとなったとしても、供用できる計画

1年目 (H18)	調査測量 設計協議
2年目 (H19)	
3年目 (H20)	
4年目 (H21)	用地取得 詳細設計
5年目 (H22)	
6年目 (H23)	土工工事 橋梁工事 トンネル工事
7年目 (H24)	
8年目 (H25)	
9年目 (H26)	
10年目 (H27)	舗装工事 施設工事
11年目 (H28)	

供用予定日:平成29年3月31日

経営努力による変更

- ・調査測量の早期実施、設計協議の早期完了
⇒約12ヶ月の期間短縮
- ・土工、舗装、施設工事の短縮
⇒約12ヶ月の期間短縮
- ・収用手続きの早期完了
⇒工程遅延の回避



【椎田南IC～豊前IC】
供用日:平成28年4月24日
(341日の早期供用)

【豊前IC～宇佐IC】
供用日:平成27年3月1日
(761日の早期供用)

当初及び実施工程(東九州道 椎田南IC～宇佐IC)

当初計画

	椎田南IC	豊前IC	中津IC	宇佐IC
連絡等施設	○	○	○	○
平成18年度		・基準点測量、路線測量 ・一次土質調査		
平成19年度		・協議用図面作成 ・設計協議(官公庁協議、地元協議)		
平成20年度		・幅杭設計 ・幅杭設置		
平成21年度		・用地交渉、取得 ・道路詳細設計		
平成22年度		・発注用図面作成		
平成23年度				
平成24年度		・土工工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事		
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度		・施設工事		
平成28年度		・舗装工事		
平成29年度	※全体としては、標準的な供用工程ではあるものの、収用手続きとなったとしても、供用できる計画			

変更計画

	椎田南IC	豊前IC	中津IC	宇佐IC
	○	○	○	○
		・基準点測量、路線測量、一次土質調査 ・協議用図面作成		
		・設計協議(官公庁協議、地元協議) ・幅杭設計、幅杭設置		
		用地難航案件		
			・用地交渉、取得 ・道路詳細設計 ・発注用図面作成	
		・土工工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事		
			・舗装・施設工事一部開始	
		・施設工事 ・舗装工事		
				平成27年3月1日開通
				平成28年4月24日開通

1年短縮

1年重複

【椎田南IC～豊前IC、豊前IC～宇佐IC】
測量、調査、協議用図面作成を全線に渡り初年度で完了させるなどにより、用地交渉までの期間を約1年短縮

【豊前IC～宇佐IC】
工事の一部先行発注及び引渡し可能箇所への施設・舗装工事への部分引渡しの繰返しにより、約1年間の期間短縮

工程短縮の取組み

①調査測量、設計協議の早期完了（約12ヶ月の工程短縮）

工程短縮のため、会社により全体工程マネジメントを実施

- ・会社として当該区間の2年の供用前倒しを目標として掲げ、平成18年3月の事業許可後、**ただちに充実した現地体制を立ち上げ**、全線約28kmに渡る測量・土質調査・設計等を**前倒し**、**並行して作業を進めること**により、調査測量、設計協議用図面作成に要する期間を**約6か月間短縮**
- ・地元協議にあたっては、通常協議の中で詳細を詰めていく水関連の調査について、**事前に詳細調査を行い**、**当初から協議用図面に調査内容をしっかりと盛り込む**ことで速やかな理解が得られた
- ・また、地元協議時には、常に行政職員に同行していただき、**行政で対応すべき箇所を地元協議の場で速やかに調整を行える仕組みを整える**ことで、地元関係者との信頼を得て、円滑かつ早期に協議が完了し、設計協議に要する期間を**約6か月間短縮**



調査測量・設計協議で約12ヶ月短縮

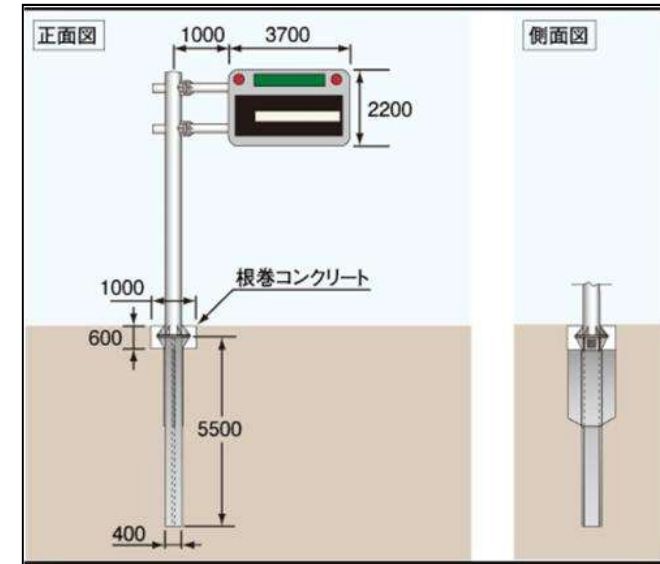
	平成18年度	平成19年度	平成20年度
当初計画	測量 土質調査 協議用図面作成		設計協議 幅杭設計 幅杭設置
変更計画	測量 土質調査 協議用図面作成	設計協議 幅杭設計 幅杭設置	12ヶ月の短縮

工程短縮の取組み

②土工・舗装・施設工事における工程マネジメント（約12ヶ月の工程短縮）

- ・用地取得完了箇所から**土工工事を随時発注**
- ・C-Boxの先行構築が必要となる箇所において、用地取得が難航したため、設計協議完了後であったものの、**改めて地元協議を実施**。C-Boxの位置を8mずらすことにより**C-Boxに先行着手**
- ・土工、舗装、施設工事（約30件）間において、綿密な工程調整を実施。**狭小ヤードであっても土工工事から舗装工事、施設工事への部分引渡しを繰り返し実施**
- ・さらに、**昼間に舗装工事、夜間に施設工事を実施**することで、輻輳作業を回避し、工程を短縮
- ・施設工事については、道路情報板の基礎にポールアンカー方式基礎の採用、管路工に軽量ダクトを採用することにより、**施工性を向上させ、作業時間を短縮**

ポールアンカー



椎田南IC～豊前ICは、**結果的に用地取得に時間を要し約1年の早期供用**

豊前IC～宇佐ICでは、**土工・舗装・施設工事での約12ヶ月短縮により約2年の早期供用を実現**

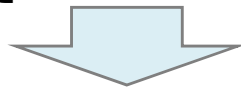
工程遅延回避の取組み(椎田南IC～豊前IC)

①収用手続き

- ・椎田南IC～豊前ICの用地難航箇所が供用のクリティカルになっていた
- ・収用手続きにあたっては、事業認定告示後、早期の裁決申請へ向け、測量、物件調査に人員投入等を行い、短期間で実施した

②土工工事

- ・用地難航箇所の切土部については、当初一方向からの掘削で計画していたが、反対側の切土部に早期着手し、当該切土部のみを残す形とし、用地取得後に集中的に対応する計画に変更した
- ・用地取得後の切土掘削(30万m³:ダンプトラック延べ約7万台)は**最大4班編成**で実施するとともに、新たに地元協議を行った上で、**掘削土の仮置き場を近隣に設置**し、土運搬距離を一時的に短縮した



当該箇所の工事着手(平成27年9月)から**約半年間で土工・舗装・施設工事を完了させ、当該箇所の工程遅延を回避した**



土工部掘削状況



経営努力要件適合性の認定について

調査測量、設計協議の早期完了、舗装・施設工事の工期短縮等の努力により、**供用までの期間を短縮したものである**

運用指針第2条第1項第3号に該当

約12か月の工期短縮による金利の縮減
(椎田南IC～豊前IC)
約24か月の工期短縮による金利の縮減
(豊前IC～宇佐IC)



会社の経営努力による
ものであると認定

助成金交付における経営努力要件適合性の認定に関する運用指針(抜粋)

第二条 経営努力要件適合性の認定基準

機構は、助成金交付申請をした高速道路会社の主体的かつ積極的な努力による次の各号に掲げる費用の縮減(適正な品質や管理水準を確保したものに限り)について、経営努力要件適合性の認定を行うものとする。

③供用までの期間を短縮したことによる費用の縮減